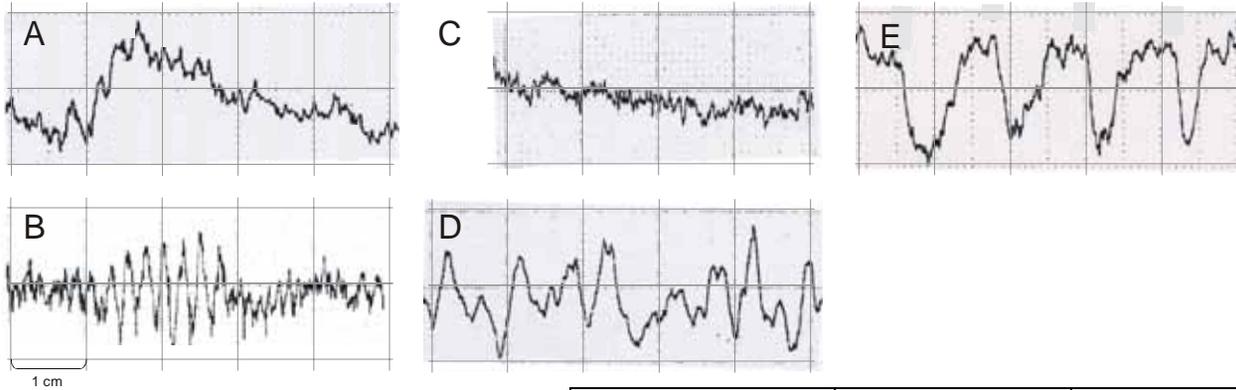


下の 5 枚の記録は、実習と同じ条件で脳波を記録したものです。



- この記録を行う記録条件は、どのように設定するのが最も適当か。右表の下線部の 4 つの選択肢のうち、適当なもの一つに をつけなさい(2 点)。

感度	紙送り速度	Low cut filter	High cut filter
<u>5 μV、50 μV</u>	25 mm/s	<u>0.5 Hz、5 Hz</u>	30 Hz
500 μV、5mV		10 Hz、100 Hz	

- A の記録に横目盛り(時間軸)を書き入れなさい(1 点)。(枠の 1 目盛りは 1cm を示す)

- 上の記録で、波の出現している部分にマークを入れなさい(1 点)。

- マークを入れた部分について、右の表をうめて波の周波数を求めなさい(3 点)。

波の出現している時間 (単位：秒)	出現している 波の 周期数(単位：周期)	左の値から求めた 波の 周波数(単位：Hz)

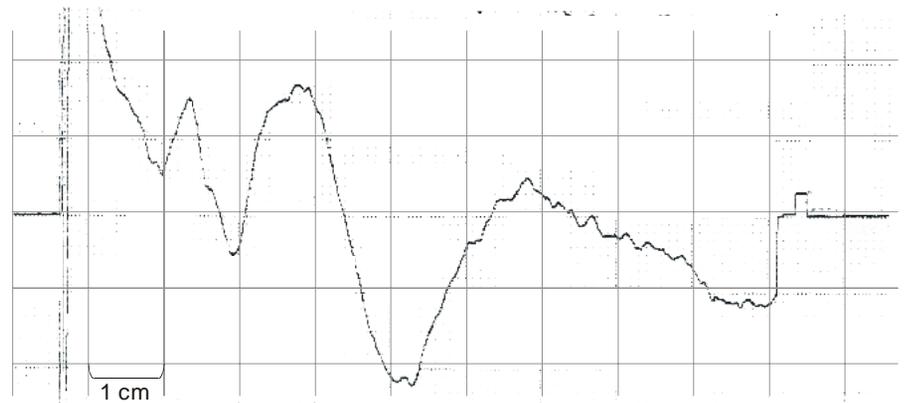
- 以下の条件での記録はどれか。上の記録中、最も典型的なものを選びなさい。但し、説明に当てはまらない記録が 1 つあります(4 点)。

- 1 . () 被験者は、安静開眼状態であった。
- 2 . () 被験者は、安静閉眼状態であった。
- 3 . () 被験者は、浅い睡眠状態であった。
- 4 . () 被験者は記録中、下向き眼球運動を行った。

下の記録は、実習と同じ条件で記録された体性感覚誘発脳波です。なお、記録は左脳上から行っています。

- この記録を行う記録条件は、どのように設定するのが最も適当か。下線の選択肢のうち、適当な方に をつけなさい(1 点)。

感度	Low cut filter	High cut filter
10 μV	0.5 Hz	1k Hz
解析時間	正中神経刺激	
100 msec	右手首、左手首	



- 記録条件を参考に、上の記録に横目盛り、縦目盛り、刺激時点を入れなさい。縦目盛りに関しては、どのように決定したか分かるように書きこむこと。なお記録には、実習中と同様、感度の 1/10 の校正電圧が入っている(3 点)。

- この記録には、右の表のピークが見られるか。見られる場合は記録中にピークを示すマークを入れ、右の表に潜時を書き入れなさい。ピークが見られない場合は、表に「不明」と書き入れよ (6 点)。

ピーク	N ₂₀	P ₂₅	N ₃₃	P ₄₅	N ₆₂
潜時 (msec)					

III.脳波についての下の記事で、正しいものには を、誤りがあると思われるものには×を書き入れなさい(各 1 点)。

- () 脳波の電極をつける時、皮膚表面をアルコール綿などでよくふいておけば、後は何時間でもそのまま記録できる。
- () 国際 10/20 電極配置法で、正中中心部 (頭の前後方向、及び左右方向の中心) は Cz と呼ばれる。
- () 一次聴覚野の活動を見る聴覚中潜時電位は、シルビウス溝の真上、すなわち側頭葉上付近で記録するとよい。
- () 短潜時の誘発脳波を記録するときには長潜時波形の記録の場合より、high-cut filter、low-cut filter とともに高周波に設定する必要がある。